

基本方針Ⅰ（子供のスポーツ機会の充実）

政策項目	指 標	2018年度 (H30) の値	2019年度 (R元) 実績値	2020年度 (R2) 実績値	2021年度 (R3) 実績値	2022年度 (R4) 実績値	2023年度 (R5) 目標値
1	①「全国体力・運動能力、運動習慣調査」における授業以外でほとんど毎日（週420分以上）運動やスポーツを実施している児童の割合（小5）	男 56.9%	男 55.6%	（調査未実施）	男 54.3%	男 54.1%	男 59%
		女 34.0%	女 31.6%	（調査未実施）	女 33.8%	女 34.0%	女 37%
	②「全国体力・運動能力、運動習慣調査」における児童の体力合計点の全国体力合計点との比較（県平均/全国平均）×100（小5）	男 98.9%	男 98.7%	（調査未実施）	男 98.4%	男 97.9%	男 100%
		女 99.1%	女 98.7%	（調査未実施）	女 99.2%	女 98.6%	女 100%
2	平日1日と土日どちらか1日を休養日としている部活動顧問の割合（中学・高校）	中学校 平日 80.4%	中学校 平日 86.0%	中学校 平日 84.5%	中学校 平日 89.6%	中学校 平日 91.1%	中学校 平日 100%
		土日 93.2%	土日 96.5%	土日 96.1%	土日 96.1%	土日 97.2%	土日 100%
		高校 平日 79.0%	高校 平日 79.4%	高校 平日 81.3%	高校 平日 85.0%	高校 平日 83.8%	高校 平日 90%超
		土日 80.9%	土日 84.2%	土日 85.8%	土日 87.9%	土日 86.7%	土日 90%超

結果

○政策項目 1 ①②

・子供の運動習慣の確立、体力の向上を目指し、「健康・体力向上一校一実践運動」等を実施した。男子は低下、女子は横ばい傾向であった。山梨県は男女とも全国平均を上回っているが、コロナ禍前と比較して低下傾向にある。スポーツ活動等の制限、学校全体で体力向上に取り組む機会の減少が体力の低下に影響していると考えられる。

○政策項目 2

「やまなし運動部活動ガイドライン」における教員の理解が進んだため、改善傾向にある。
 ・令和2年度中学校における割合の低下の要因は、コロナ禍により密を避け分散して早朝練習等を行ったため、見かけ上割合が低下した。
 ・令和4年度高校における割合が低下した要因は、令和2年度は臨時休業期間、令和3年度は部活動自粛期間があったが、令和4年度は部活動が年間通じて通常通り行われたためである。

分析

○政策項目 1 ①②

・コロナ感染症が5類に引き下げられた事を契機に、授業の工夫・改善や、運動強度を高めるなどの取り組みを一層推進するとともに、「目指せやまなしチャンピオン」事業、「もっと楽しい体育授業で体力アップ」等の取り組みを通じて、子どもが運動の楽しさを認識し、自ら運動活動に取り組む指導が必要。

○政策項目 2

・「やまなし運動部活動ガイドライン」等に基づき、各学校において策定した「部活動活動方針」等の基準に基づいた部活動運営を適切に進めるよう、会議等を通じて教職員に徹底していくとともに、超過勤務傾向のある教員について、所属する該当校校長から指導を行い、適切な部活動運営が行われるよう指導を行うなどの取り組みが必要。

基本方針Ⅱ（健康教育の充実）

政策項目	指 標	2018年度 (H30) の値	2019年度 (R元) 実績値	2020年度 (R2) 実績値	2021年度 (R3) 実績値	2022年度 (R4) 実績値	2023年度 (R5) 目標値
1	全国体力・運動能力、運動習慣調査における「朝食を食べない日が多い」「食べない」児童生徒の割合（小5・中2）	小5男 2.2%	小5男 2.0%	（調査未実施）	小5男 2.5%	小5男 2.6%	小5男 2.0%
		小5女 1.4%	小5女 1.7%		小5女 1.9%	小5女 1.8%	小5女 1.3%
		中2男 4.8%	中2男 4.2%		中2男 4.4%	中2男 4.3%	中2男 4.6%
		中2女 3.9%	中2女 4.0%		中2女 4.2%	中2女 5.0%	中2女 3.5%

結果

○政策項目 1

・全国平均値と比較すると本県の朝食欠食習慣のある児童生徒の割合は小さいが、中学校男子を除き欠食習慣の割合が基準値より増加しており、目標値達成に向けた望ましい進捗状況とならなかった。

分析

○政策項目 1

・朝食摂取には、朝の望ましい生活リズムが不可欠であり、睡眠時間の十分な確保やスマホの利用時間など、生活習慣全体に目を向けた指導が必要である。教職員が連携して個々の朝食欠食の理由を把握し改善への働きかけを行うとともに、保護者との面談などの機会に改めて朝食摂取の大切さを伝えるなど、学校と家庭が協力して子どもの朝食摂取習慣をつくる必要がある。